



## あたたかなふるさと 「しあわせホームタウン甘楽」を 目指して

甘楽町長 茂原 荘一

まちづくりを進めるための指針となる総合計画は、昭和34年から始まりこれまで5次にわたりそれぞれの時代背景に応えながら、本町のあるべき姿を目指し策定して参りました。

時代は令和となり、少子高齢化と人口減少社会の到来、大規模災害の頻発、社会保障費の増大と持続可能な財政運営、急速に進むデジタル化社会など、様々な課題を抱えています。特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、経済や雇用への影響のみならず、人々の行動・意識など、大きな変化をもたらし新しい生活様式が求められ、時代の大きな転換期に直面しています。

第6次総合計画は、こうした新たな時代の変化に対応し、すべての町民の暮らしを守り、持続可能なまちづくりを進め、町民と行政との共創によるまちづくりを推進するための指針として策定したものです。

今回の計画でまちの将来像として描いた「しあわせホームタウン甘楽」の実現に向け、一人ひとりが生き生きと幸せに暮らしていける町を目指し、「住んでよかった」「住みたい・住み続けたい」と思える甘楽町をつくるため、「いきいきかんらプラン第6次総合計画」を策定し計画を実行して参ります。

本計画の策定にあたり、熱心にご審議をいただいた総合計画審議会委員の皆さまをはじめ、町民アンケートや総合計画策定懇談会において貴重なご意見ご協力をいただきました多くの町民の皆さまに感謝申し上げます。

誰もが「しあわせ」を実感できるホームタウン（ふるさと）を目指して、町民の皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年3月